

2013年8月22日

プレスリリース

合同会社土曜社

関東大震災から90年、38歳で斃れた革命児を悼む

合同会社土曜社（東京・渋谷）は、来る9月16日、90年前の「甘粕事件」に思いをはせ、『新編 大杉栄追想』を出版するはこびになりました。

1923年、90年前の東京では、7月にフランス外遊から帰国した大杉栄（当時38歳）が国内同志を組織すべく動き始めていました。子煩悩な大杉は、8月に生まれた長男ネストルの子守もよくしたと伝えられています。

そして9月1日、関東大震災が起こります。新宿・柏木の大杉邸は、地震の被害こそ軽微でしたが、「主義者と朝鮮人暴動」の流言の飛ぶなか、大杉は16日、戒厳令のしかれた大手町の憲兵隊司令部で暗殺されてしまいます。

「甘粕憲兵大尉が大杉栄を殺害」と大阪朝日新聞、時事新報が20日に号外を発しますが、ただちに情報統制がしかれ、半月余りにわたり一切の報道は禁じられました。

甘粕事件から12月の虎ノ門事件へむかう不穏な情勢のもと、『中央公論』とならぶ有力誌『改造』を擁する改造社は、社屋倒壊の難にあいながら、山本実彦社長宅に編集部を移し、大杉栄を悼む16人の言論人、同志たちによる文集を発表します（『改造』1923年11月号）。

本書は、この文集を校訂しなおし、大杉の甥である大杉豊氏による解説を加えました。

大杉栄没後90年にあたる9月16日の命日には、故郷の新潟県新発田で森まゆみ氏の講演が、また、大杉の墓のある静岡では、大杉豊氏の記念講演が予定されています。

さらに、40年ぶりの『大杉栄全集』が、1963年の現代思潮社版以来の新編集で近刊（ぱる出版）と予告されています。

以上

書名：新編 大杉栄追想

著者：山川均（第1次共産党創始者） | 賀川豊彦（キリスト教平和主義者） | 和田久太郎（同志） | 村木源次郎（同志） | 安成二郎（元読売新聞婦人部長） | 山崎今朝弥（自由法曹団創始者） | 岩佐作太郎（元日本アナキスト連盟全国委員長） | 内田魯庵（作家） | 松下芳男（元工学院大学教授） | 土岐善麿（元国語審議会会長） | 近藤憲二（『大杉栄全集』編者） | 馬場孤蝶（元慶應義塾大学教授） | 宮島資夫（作家） | 有島生馬（二科会創始者） | 久米正雄（作家）

解説：大杉豊

ペーパーバック版・184頁 2013年9月16日発売 ISBN978-4-9905587-9-6 本体952円



取材、見本・画像データのご用命は、下記担当が承ります。

解説者・大杉豊氏のインタビューなど、ぜひご検討ください。

合同会社土曜社 | 150-0034 東京都渋谷区代官山町 14-6-301 | www.doyosha.com
担当・豊田剛 | tsuyoshi.toyota@doyosha.com | t. 050-3633-1367 | f. 03-6369-3339